



2014～15 年度
国際ロータリー会長

ゲイリー C. K. ホアン

Weekly Report Niigata



ロータリーに輝きを

2014～15 年度 国際ロータリーのテーマ



2014～15 年度
新潟ロータリークラブ会長

高橋 秀樹

新潟 RC 4 月第 3 例会 (2015.4.21) No.3084

(1) ロータリーソング「我らの生業」斉唱

(2) 高橋 秀樹会長挨拶

さて本日は、新入会員紹介、ロータリーの友紹介、表彰など予定が盛りだくさんです。例会中の項目がたくさんあるのは、それだけ会が活性化しているという望ましい傾向かと思えます。というわけで、会長挨拶は報告事項をいくつか申し上げるにとどめたいと思います。

先ず、先週は 75 周年記念例会・観桜会を無事に開催することができ、本クラブは一つの節目を越えて、新たな一歩を踏み出しまして喜ばしい限りですが、その折に頂いたお祝いについて報告しておきたいと思えます。東京ロータリークラブ様、そして前橋ロータリークラブ様から多額のお祝いを頂きました。そして香港島東ロータリークラブ様からは 75 周年記念例会お祝いの他、前夜祭の折に心づくと、更にご帰国の際に新潟空港で社会奉仕活動のために役立てて下さいというメッセージと多額のご寄贈を頂きました。各クラブの友情の精神に心から感謝したいと思えます。

次に、この一週間で、ロータリー財団に関することが二つございました。

一つは、ロータリー財団地区補助金の支援を受けた探鳥会です。18 日土曜日、佐藤伸一さんと小飯田澄雄さんのお手配により、有明児童センターの子どもたちを対象として実施されました。有明児童センターは高橋秀松さんが理事長を務めておられる施設の一つです。初めての試みでしたが、子どもたちにも大いに喜ばれたようです。地区補助金は、ロータリアン自らが地区で活動するためのものであり、どこかの組織に活動を丸投げするための資金ではありません。探鳥会では、関係委員会のみなさんが、子供たちとともに林を歩き回り、時には子供たちを手助けして、自然への理解を促しました。関係のみなさまお疲れ様でした。

もう一つは、ロータリー財団グローバル補助金の支援を受けて昨年度派遣した奨学生・麩澤美裕さんからの近況報告です。派遣の手続きからその後のやりとりまで得永哲史さんがご尽力下さっており、奨学金支給期間終了後も連絡にあたっておりましたが、14 日に麩澤さんから近況報告がありました。以下、麩澤さんからのメールからの抜粋です。

「指導教官から、この夏は帰国してよいと承認されたので、7 月中旬から 8 月中旬にかけて一ヶ月ほど帰国する予定です。是非お世話になったロータリークラブの皆様へ、留学生活の報告をしたいです。この夏で、修士号を取得する予定ですが、同時に博士課程へと進学することになりました。同じ大学大学院、同じ研究室(指導教官)です。これも、献身的なサポートをしてくださった得永さんをはじめとする、新潟ロータリークラブの皆様のおかげです。本当にありがとうございます。自分がまさか博士課程へ進むとは、北海道大学に在学していた際は思っていなかったもので、不安でいっぱいですが、研究を楽しんでいる自分もいて、これからが楽しみでもあります。2 年間日本へ帰国していませんので、ホームシックの状態が長く続いています。今夏一時帰国できますのが楽しみです。また、2 日前に、日本館の一般公開の際に茶道を披露しました。茶道は 9 月から日本館で郡司紀美子様から習い始め、研究ばかりの生活に本当にいいリフレッシュになっています。郡司様ご夫妻に出会えたのも、新潟ロータリーの皆様にご紹介いただきましたおかげです。感謝の気持ちでいっぱいです。写真を添付しましたので、良ければご確認ください。」

送られてきた写真をスライドに映しますのでご覧ください。得永さん、奨学生とのやりとりいつもありがとうございます。これからも宜しく願いいたします。このことについて少しコメントしたいのですが、奨学制度というと、どうしても事務的なお金のやりとりで終始しがちなところがあります。お金はとても大切な要素で、それが無くては何も始まりませんが、しかし、お金さえ提供していれば人が育つのかと言えば、そういうわけではないと思えます。成長しようとしている学生に対して、常に見守って支援している者がいることを伝え、奮起を促すことが大切で、お金のやりとりは支援の気持ちの表現であるべきことを忘れてはいけないと思えます。今の日本においては、若い学生にとってありがたいことに奨学金の制度はいろいろあります。しかし、奨学金を提供する側でも、受け取る側でもその意味を失念しまつては、奨学金授受の中身が、能力評価のテストと事務的な手続にすり替わってしまいかねません。ロータリークラブに関わる奨学制度については、そのようなことがないよう、奨学生の成長を温かく見守る姿勢を忘れないでいたいものと思えます。

以上、報告3件にて、本日の会長挨拶を終わります。

(3) 新会員の紹介



白根大通病院院長
新田 幸壽
親睦委員

私は小児外科医でしたが、26年新潟市民病院を定年退職し引続き白根大通病院の院長(ほぼ内科医)として働いています。当院は、ホスピス病棟を有する299床の慢性期療養病院です。小児言語リハビリテーション外来を開設しましたが小児の入院患者はおられません。高齢者が大半で寝たきりの患者さんも居られます。今国は国民医療費の高騰を抑制するために、マイナス的診療報酬改定を続け、療養病床数を削減し、県・医師会・医療機関と協働して地域包括ケアシステムを構築して在宅医療を推し進めています。一方医療現場では老々介護の悲惨さや在宅終末期医療の困難さが問題となっています。当院も国策の在宅復帰を進めていますが、逝く人には人間らしく逝けるような場を提供し支援したいと考えています。医師としての現職務全うはロータリアン奉仕活動の一つと心得、諸先輩のご指導ご支援を仰ぎながらロータリアンの奉仕活動に努めます。宜しくお願い致します。



麒麟ビールマーケティング(株)
新潟支社長 山本 泰仁
親睦委員

この度、新入会させていただきました麒麟ビールマーケティング(株)の山本泰仁です。私は1989年に麒麟ビール(株)に入社以来、営業を約15年、広報部・ナガノマト(株)・メルシャン(株)出向が約10年と、様々な業務に携わってきました。この4月より、徐々に営業に復帰し、新潟に参りました。まだ、1ヶ月足らずの新潟ですが、印象は、「うまいもの、うまい酒、そして、よき人々あり」という感じです。着任以来、新潟中を駆け巡っていますが、とにかく、どこに行っても、美味しい山海の幸、酒、温かい人情にめぐり会えます。ビールや酒類の販売を通じて、新潟の皆さんに喜んでいただけるよう貢献したいと思っております。また、ロータリークラブ諸先輩方のご指導を賜りながら、ロータリー奉仕活動にもしっかりと取り組んでまいりたいと存じます。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

(4) 委員会報告

・本間 靄 青少年奉仕委員長より「青少年の夕べ」ご案内
青少年奉仕委員会はRA、IA、RYLAの3つで構成されていますが、それに米山奨学生、R財団奨学生OBの若者に集まってもらい、会員の皆様から、中に入って、いろいろなお話をして頂きたく、青少年の夕べを企画致しました。いつも例会でピアノ演奏をして頂いている濱田道子さんに演奏を、柴田 史郎先生に音楽の監修をお願い致しました。5000円の会費ですが、特別なお料理をお出します。5月27日 午後7:00～イタリア軒です。既に欠席で回答頂いております方も、ご都合がございましたら、ぜひ、事務局へお知らせください。

(5) 各種ご寄付の発表

ロータリー財団寄付発表(樋熊 紀雄委員長)

樋熊 紀雄君

米山奨学会寄付発表(宇尾野 隆委員)

徳永 昭輝君 徳山 啓聖君

竹石 松次君

青少年育成基金寄付発表(山田 隆一委員長)

樋熊 紀雄君 後藤 司郎君

塚田 正幸君

(6) ニコニコボックス紹介

・塚田 正幸君 今日卓話の講師はニコニコボックス委員会の若手ナンバーワン村松敦支店長です。居眠りしないで聞きます。楽しみにしています。一昨日の日曜日天気が良く今年初めて自転車に乗り、信濃川やすらぎ堤の右岸、左岸を往復10キロ走りました。桜の花びらが道路一面に散り、色とりどりのチューリップが咲きとても気分良かったです。

・樋熊 紀雄君 新田様入会に感謝しニコニコです。皆様よろしくお願いします。

・金親 顯男君 キリンビールの山本さんの入会を歓迎しニコニコします。

・本間 靄君 先日の創立75周年記念式典(例会)では、当社の紅白饅頭をご用命頂き、ありがとうございました。

・内山 清君 皆様のお蔭で息子の市議員選挙、無事当選させていただきました。ありがとうございました。これで我が家にも春が来そうです。

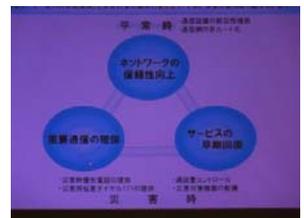
・玉 知夫君 香港島東ロータリークラブからのお客様を迎え、国際奉仕にご協力を頂きニコニコします。ありがとうございました。

(7) 幹事報告(安藤 栄寿幹事)

例会終了後4階「雪椿の間」で新会員オリエンテーションを開催致します。

(8) 会員スピーチ「ICTが創る未来の社会」

東日本電信電話(株)新潟支店支店長 村松 敦 君



(9) 本日の出席率 62.77%

会員数98名(出席免除会員7名)

出席者59名(出席免除会員3名を含む)

(2週間前メーク後 84.05%)

活動報告

新潟ロータリークラブ社会奉仕委員会主催 「小学生と一緒に自然探訪と探鳥会」

2015年4月18日（土）開催

4月18日（土）に青山地区松林にて開催されました。

当日は天候にも恵まれ、春の快晴の中、高橋会長、小飯田社会奉仕委員長はじめとする総勢31名と有明児童センターの子ども達16名が参加いたしました。

まずは有明児童センターに集合の後、新潟探鳥会の方々から双眼鏡の使い方や松林での鳥を探し出す方法、観察する方法などの説明を受けた後、2・3年生の組と4・5年生の組に分かれて松林に向かいました。

松林では、様々な鳥の鳴き声が聞こえ、そのたびに新潟探鳥会の方より鳥についての説明があり、子ども達と一緒に鳥の姿を探しましたが、鳴き声はすれども、なかなか姿が見えず、たまに姿が見えた時には、みんな必死に双眼鏡を覗き込んでいました。

予定の2時間はあっという間に過ぎ、子ども達は少し物足りなさそうでしたが、久しぶりに自然の中を散策し、心が洗われるひと時を過ごすことが出来ました。

また、我々人間と鳥や植物たち多くの生き物たちとの関係性や、自然の大切さを改めて考えさせられた貴重な一日でした。

